

アレルギー・膠原病疾患

科目責任者 倉 沢 和 宏
学年・学期 6 学年

I. 前 文

免疫系は非自己と自己を区別し自己を護るシステムである。しかし、時として免疫反応が生体に傷害を与え、また、自己を確認できなくなることがある。アレルギー疾患は前者に基づく疾患で、膠原病の多くは後者の機序による。外因性抗原によるアレルギー性疾患には気管支喘息、花粉症、アナフィラキシーショック、薬剤アレルギー、過敏性肺臓炎などがある。これらの疾患に罹っている人は年々増え総人口の10%以上と言われている。一方、自己免疫は極めて多くの疾患の発症、症状の進展に関与していることが明らかになってきている。ここではアレルギー・免疫疾患の基礎的事項から各論までの知識を整理し、実際の臨床で役立つような形で講義する。

試験は講義で解説した内容をよく理解していれば解答できる問題を出題する。また、正解を公表するとともに、問題の適切性に関しての意見や設問に関する質問を受け付ける。

II. 担当教員

内科学（リウマチ・膠原病）	倉 沢 和 宏
内科学（リウマチ・膠原病）	前 澤 玲 華
内科学（呼吸器・アレルギー）	清 水 泰 生
日光医療センター	知 花 和 行

III. 学修の到達目標

- 1) 種々のアレルギー疾患および膠原病疾患の概念、発症機序、病態を理解する。
- 2) 症候や理学所見から鑑別診断に必要な検査をあげられる。
- 3) 治療法を提示し、適切なものを選択できる。
- 4) 重症度や予後を理解し説明できる。

IV. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（1時間）

- 1) I-IV型アレルギーの病態と発症メカニズムを理解しておく。
- 2) アレルギーや好酸球が関与する呼吸器疾患を列挙できるようにしておく。
- 3) 自己免疫疾患の発症メカニズムを理解しておく。
- 4) 膠原病・膠原病類縁疾患を列挙できるようにしておく。

事後学習（2時間）

- 1) アナフィラキシーの診断と治療法を説明できるようにする。
- 2) アレルギーや好酸球が関与する呼吸器疾患の病態と治療を説明できるようにする。
- 3) 各種膠原病の症状、臨床所見、検査所見、治療法を説明できるようにする。

V. 授業計画及び方法 *（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	7	13	水	1	アレルギー疾患のまとめ	内科学(呼吸器・アレルギー) 清水 泰 生	1
2		14	木	3	膠原病のまとめ	内科学(リウマチ・膠原病) 倉 沢 和 宏	1
3		14	木	7	アレルギー疾患のまとめ	日光医療センター 知 花 和 行	2
4		15	金	5	膠原病のまとめ	内科学(リウマチ・膠原病) 前 澤 玲 華	2

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

各コマを網羅するように五者選択問題を作成し、原則として60%以上を正答したものを合格とする。

VII. 医師国家試験出題基準（平成30年版）における区分

各論（XIアレルギー性疾患，膠原病，免疫病）-1（アレルギー疾患），-2（膠原病と類縁疾患）

VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験における疑問点等について回答・討議する場を設けます。